

第40回全国削ろう会秦野大会招致・実行委員会設立趣意書

秦野市は、丹沢山地をはじめ市域の約52%を森林が占める県内唯一の盆地で、芦ノ湖の4倍もの地下水を有する自然豊かな都市です。環境省の名水百選にも選ばれた豊富で良質な水は、人々の生活を支え、「秦野名水」として親しまれています。先人が大切に守り育ててきた豊かな水源とこれを育む森林を、市民共有の財産として次世代に引き継ぐため、市民、事業者、行政が一体となって、植樹・育樹・活樹事業に取り組んでいます。

森林を適切に整備、保全することは、激甚化する自然災害に対する回復力の強化につながります。また、森林による二酸化炭素の吸収と固定化の促進は、カーボンニュートラルの実現に貢献するため、秦野産木材の利用拡大は、本市の特徴を生かした地球温暖化対策となります。このため、森林資源の有効活用とそれに伴う地域経済の活性化を柱とするバイオマス産業都市構想の策定と、秦野産木材を地域の活力に還元していく取り組みを進めています。

令和7年1月に市制施行70周年を迎えるこの機会に、次の趣旨に基づき、全国大会を本市に招致し、大会の円滑な運営を図る体制を確立するため、市内の関係団体参加のもと、「第40回全国削ろう会秦野大会招致・実行委員会」を設立するものです。

- 1 市民共有の財産である「秦野名水」の豊かな水源と、これを育む森林を次世代に引き継ぐため、大会のコンセプトを「植樹（植える）・育樹（育てる）・活樹（活かす）」とし、特に、木の活用（活樹）に焦点を当て、啓発を図る。
- 2 市民が、建築大工等優れた技能に身近に触れる機会を提供し、木工技術者の技能向上・振興を図るとともに、建築・木工芸術文化を次世代へ伝承する。
- 3 木造建築の啓発を行い、市内建築関連産業の活性化を促進する。
- 4 森林の持続可能な循環サイクルを構築するため、木材活用の啓発を図るとともに、市民が木と触れ合う機会を創出する。
- 5 全国育樹祭誘致の機運醸成を図る。

令和5年10月31日